

卵用地鶏という新しい ジャンルへの挑戦

平成28年7月22日
家畜改良センター岡崎牧場



◎イントロ（卵における差別化）

- 鶏卵は、生活必需の食料品として、差別化という意識、発想が、生産及び消費サイドとも少なかったが、今後の国際化の進展の中で中小規模農家の存続、国民の豊かな食生活という観点から、積極的な取り組みが期待。
- 鶏卵の差別化については、飼料の栄養成分、飼養・衛生管理方法等について、企業、個人ベースの取組が行われているが、利用する鶏種が世界的に普及する外国鶏種が大部分ということもあり、肉用地鶏のような地域ベースの取組になりにくい傾向あり。

1

◎イントロ（銘柄卵の差別化トレンド？）

【これまで】

特定の栄養成分の強化、こだわり飼料の給与
(ヨード、ビタミン強化卵、飼料米、ハーブ給与)
サルモネラワクチン投与

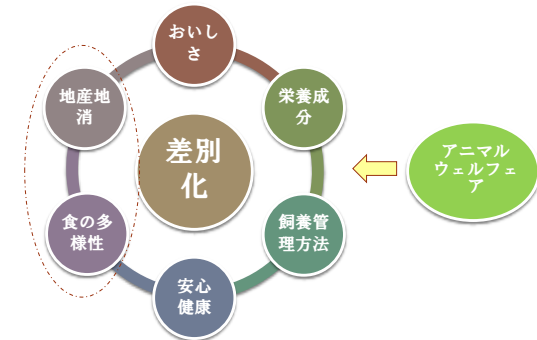
烏骨鶏（漢方薬的なイメージ）、有精卵

【今後の予想？（期待も含む）】

アニマルウェルフェア（サステイナブル）対応
→ エンリッチケージ、エイビアリーシステム、
平飼い、有機（オーガニック）、卵肉兼用
鶏種の違い（地鶏、国産鶏種、アローカナ等）

2

◎イントロ（差別化のキーフレーズ）



3

1. 地鶏とは

- 一般的に、「地域に**土着**した鶏」かつ「**肉用鶏**」というイメージ
- しかしながら、昭和時代前半まで卵用として利用した後**に**肉利用（**卵肉兼用**）するのがほとんど
→ これが本家本元？
- 「地鶏肉特定JAS」は鶏肉に限定し定義されるものであり、卵肉兼用タイプの卵、廃鶏肉等は対象としていない。（想定外）

4

（参考）地鶏肉特定JAS等の定義
（生産方法に関する基準）

- 鶏種：**在来種**（注）由来血液割合が50%以上
- 飼育期間：ふ化日から75日以上飼育
- 飼育方法：平飼い（28日齢以降）
- 飼育密度：10羽以下/m²（28日齢以降）



認定機関名

注：**在来種**とは明治時代までに国内で成立し、又は導入された別表に掲げる鶏の38品種

5

（参考2）地鶏肉特定JASで定義された在来種
：38品種

会津地鶏、伊勢地鶏、インギー鶏、**烏骨鶏**、鶉矮鶏、ウタイチャーン、エーコク、沖繩髭鶏、尾長鶏、河内奴鶏、雁鶏、岐阜地鶏、熊本種、久連子鶏、黒柏鶏、コーチン、声良鶏、薩摩鶏、佐波髭地鶏、地頭鶏、芝鶏、軍鶏、小国鶏、矮鶏、東天紅鶏、蜀鶏、土佐九斤、土佐地鶏、対馬地鶏、**名古屋種**、比内鶏、三河種、養曳矮鶏、養曳鶏、宮地鶏、**横斑プリマスロック**、**ロードアイランドレッド**

6

（参考3）鶏卵の表示に関する公正競争取引規格及び施行規則（抜粋）

公正競争規約	公正競争規約施行規則
<p>（特定用語の使用基準） 第5条 事業者は鶏卵の取引に関し、次のいずれかに該当する用語を表示する場合は、当該各号に定めるところによらなければならない。 （1）「平飼い」、「放飼い」又はこれらに類する用語 （略） （2）「<u>地卵</u>」、「<u>地玉卵</u>」及び「<u>地たまご</u>」又はこれらに類する用語 「<u>地卵</u>」、「<u>地玉卵</u>」及び「<u>地たまご</u>」又はこれらに類する用語は、採卵地が属する市、群の区域内で流通・消費されることが予想される鶏卵その他施行規則で定める鶏卵に限り、表示することができる。</p>	<p>（特定用語の使用基準） 第4条 2 規約第5条第2号に規定する鶏卵とは、次のいずれかの基準を満たす鶏卵とする。 （1）規約第5条第1号に規定する平飼い又は放飼いによる鶏卵 （2）地鶏肉の日本農林規格別表に掲げる品種由来の血液百分率が50%以上の鶏の鶏卵</p>

7

1. 地鶏とは

- 土着の解釈については、グローバル化、地域の一体化が進む中で、県（市町村）単位だけでなく、オールジャパン（国産鶏種）で定着したものと解釈すべき。
- また、ロードアイランドレッド、横斑プリマスロック、烏骨鶏と共に、アロウカナや昭和時代以降造成された新品種（合成種）も、在来種に準ずるものとする認識（定義づけ）を行い、積極的に利用していくことも重要。

8

（図2）烏骨鶏、アロウカナの写真



烏骨鶏



アロウ
カナ



9

1. 地鶏とは

- これまで、県ベースで「卵用名古屋コーチン」、「土佐ジロー」等、国ベースで「岡崎おうはん」が開発、普及されているが、未だ認知度が低く、大きな流れになっていない状況。
- このため、新たな発想で、「卵用地鶏」（通常の外国鶏種の卵用鶏と異なる鶏）を定義し、多くの関係者を巻き込んで、新規開発、普及啓発、更には地域の活性化のために活用されることが期待される。

10

1. 地鶏とは



名古屋コーチン



岡崎おうはん



あすなろ卵鶏

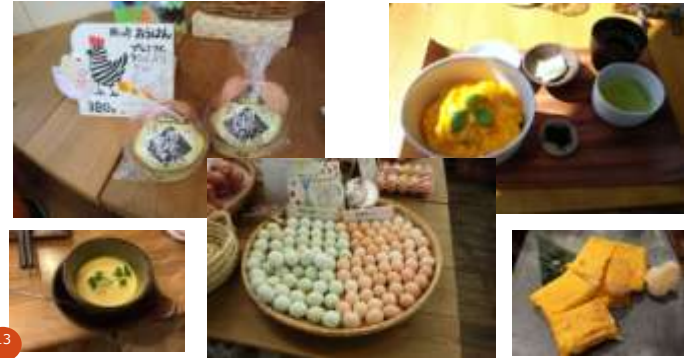
11

2. 卵用地鶏のメリット

- 卵直販店等中小規模養鶏農家、地域活性化を支援するツール
- 地鶏肉とのセット販売、料理の提供等で新たな販売ルートの獲得（地鶏肉には地鶏を連想させる「こだわり卵」がよく似合う？）
- コマーシャル鶏の増殖等を担当する畜産試験場等の自己収入増、地域活性化への更なる貢献の期待（組織存続のアピールポイント）
- 廃鶏肉の有利販売（副産物収入）

12

(図3)こだわり卵の各種販売例



13

3. 卵用地鶏の課題

- 育種改良の強化（卵質（ハウユニット）、産卵性等）
- 新たな取り組み（仲間）の拡大
- 廃鶏肉の有利販売（処理・加工のネットワークの構築）
- 認知度向上に向けた啓発活動、各種情報交換等

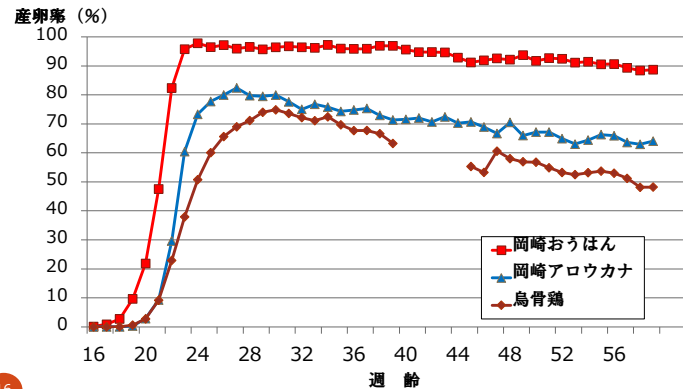
14

4. 対応（案）

- 育種改良の強化（岡崎牧場）
 - アロウカナ及び烏骨鶏の育種規模拡大（32年に♀え付け規模で450羽程度まで拡大予定）
 - 卵肉兼用タイプのロードアイランドレッド、横斑プリマスロックの導入
 - 新たな育種改良技術の応用（SNP育種等先端技術）（革新的技術開発・緊急展開事業（地域戦略プロジェクト））

15

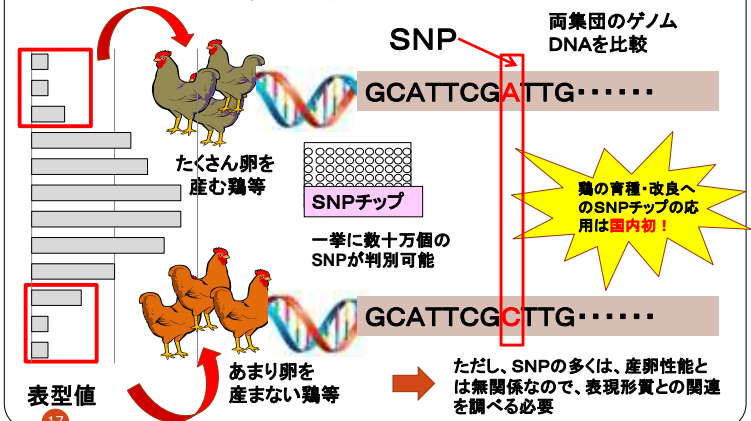
岡崎おうはん、岡崎アロウカナ（26年度）及び烏骨鶏（27年度）の産卵成績



16

(図4) 先端技術を用いた国産鶏種の改良 (ゲノム解析・選抜法の開発)

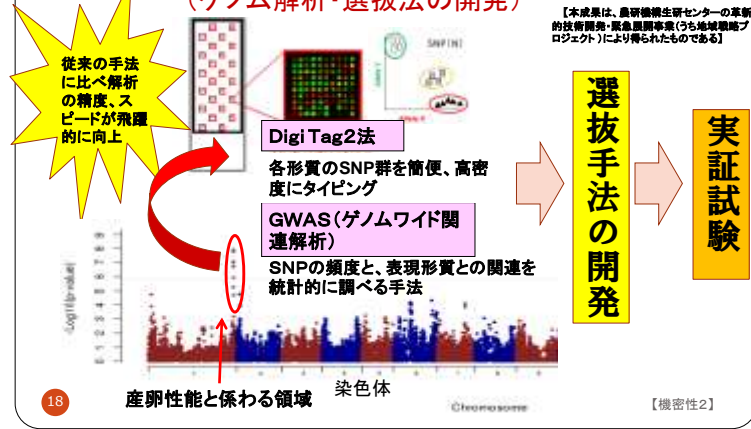
【本成果は、鳥研機構生研センターの革新的技術開発・産産関係事業(うち地域戦略プロジェクト)により得られたものである】



17

(図4) 先端技術を用いた国産鶏種の改良 (ゲノム解析・選抜法の開発)

【本成果は、鳥研機構生研センターの革新的技術開発・産産関係事業(うち地域戦略プロジェクト)により得られたものである】



18

4. 対応 (案)

・新たな取り組みの拡大 (各県、民間等)

- 岡崎牧場の育種素材、原種鶏、地域の自給飼料等を活用した、効率的、合理的な銘柄鶏開発の取組み (県独自の品種にこだわりすぎるのは時間、コスト面で? 国産鶏種であれば、地域の自給飼料、飼育方法(平飼い等)で地鶏としての差別化を行う方がベター)
- 飼育管理方法、販売戦略等に関する情報交換ネットワークの構築

19

4. 対応（案）

- 廃鶏肉の有利販売（処理・加工のネットワークの構築等）（県、民間）
 - 小規模生産では販売が困難なため、ある程度の規模拡大の努力と共に、県域を越えた広域的な処理、加工、販売のネットワークの構築とともに、適切な体のサイズとなるような飼育方法の検討も必要。
- 認知度向上に向けた啓発活動等（岡崎牧場、県、民間）
 - 関係者による定義の明確化、シンポジウムの開催等